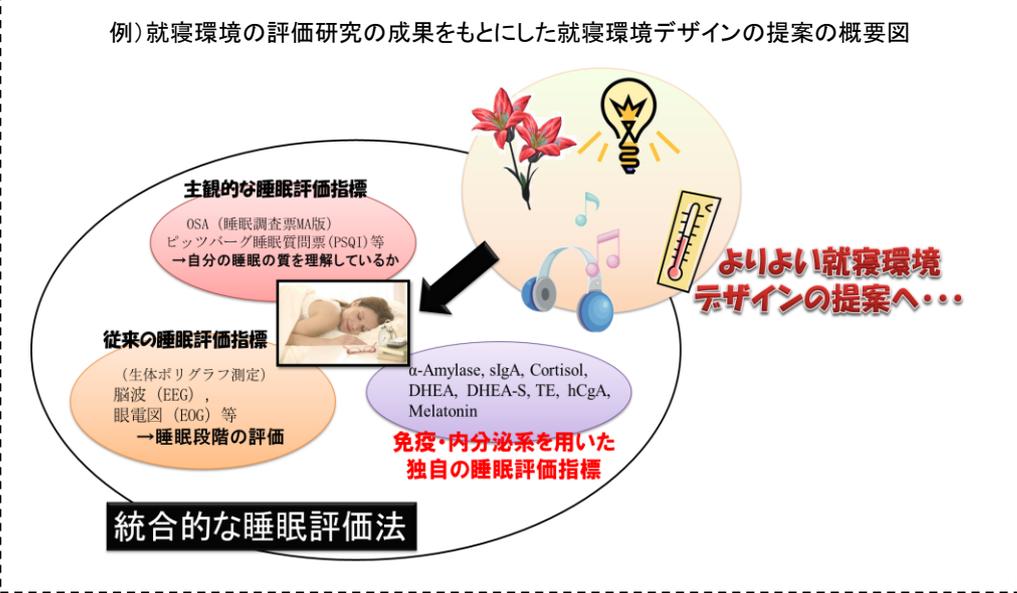


<p>健康・福祉</p>	<p>【代表的な研究テーマ】</p> <p>□ 「コト」がヒトに及ぼす影響の生理的・物質的評価研究</p> <p>□ 毛髪・爪による恒常的な心身の状態の評価研究</p>
<p>key word</p>	<p>課題解決に役立つシーズの説明</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ストレス</li> <li>■ 睡眠</li> <li>■ ホルモン</li> <li>■ 生理指標</li> <li>■ 唾液・毛髪・爪</li> <li>■ 環境評価</li> </ul>	<p>生活する空間をよりよいものにすることは、いつの時代においても、重要な課題である。必須の要件である耐震性やセキュリティの高さのような安全性の確保に加えて、近年「感性」「快適性」のようなソフト面のキーワードに注目が集まっている。</p> <p>感性や快適性を高める生活環境として着目されている要素は、主に物理的刺激と化学的刺激に分類が出来る。代表的な物理的刺激としては、音、振動、温度、光が挙げられ、化学的刺激にはにおいが含まれる。しかしながら、これらの刺激がヒトに及ぼす影響については、まだ明らかになっていないことも多い。それは、多くの研究では、ある刺激に対して、ヒトの主観の身で評価をしていたり、限られた生理指標のみで評価をしたりしていることが一因にある。例えば、睡眠中に光や香りなどの環境刺激を付与しても、自律神経系への生理的影響は限定的であることが多い。しかしながら、ホルモンによる身体内部の生理応答を調べると、むしろその影響が顕著に見出されることが我々の研究では明らかになっている。したがって、このシーズは、光・音・香りなどの多様な感覚入力に対する全身的な生理応答を体系的に調べることで、「コト」の生体評価を可能にするものである。</p> <p>また、2019年より滋賀大学発ベンチャーとして、株式会社イヴケアを創業し、毛髪を用いた健康評価の社会実装を進めている。毛髪は体内の様々な物質を取り込みながら伸長するため、体内の物質の分泌を中長期的に記録することができる。毛髪は1か月に約1センチ伸びるので、根元から3センチ部分の毛髪のタンパク質・脂質等の物質を測定すれば、最近3か月の健康状態を評価できると考えられている。このシーズを活用することで、一時的なヒトの生体反応だけではなく、恒常的な心身の状態を評価できる。</p>
	
<p>大平 雅子 Masako Ohira</p>	
<p>教育学部 教授</p>	
<p>【プロフィール】 専門分野: 応用健康科学 ・2005年 京都工芸繊維大学 応用生物学科 卒業 ・2007年 大阪大学大学院 博士前期課程 医学系研究科 医科学専攻 修了 ・2011年 大阪大学大学院 博士課程医学系研究科 予防環境医学専攻 修了 ・2011年4月-2011年9月 長岡技術科学大学 産学融合トップランナー養成センター 産学官連携研究員 ・2011年10月-2015年3月 滋賀大学 教育学部 講師 ・2015年4月-2021年3月 滋賀大学 教育学部 准教授 ・2021年4月- 滋賀大学 教育学部 教授 ・2022年4月- 滋賀医科大学 客員教授</p> <p>【主な社会的活動】 ・滋賀県教育委員会 学校保健総合支援事業連絡協議会 構成委員 ・公益社団法人日本アロマ環境協会 環境委員会 委員 ・2019年1月- 株式会社イヴケア取締役 (滋賀大学発ベンチャー) 他</p>	<p>例) 就寝環境の評価研究の成果をもとにした就寝環境デザインの提案の概要図</p>  <p>主観的な睡眠評価指標 OSA (睡眠調査票MA版) ピットバグ睡眠質問票 (PSQ1) 等 → 自分の睡眠の質を理解しているか</p> <p>従来の睡眠評価指標 (生体ポリグラフ測定) 脳波 (EEG), 眼電図 (EOG) 等 → 睡眠段階の評価</p> <p>α-Amylase, sIgA, Cortisol, DHEA, DHEA-S, TE, hCgA, Melatonin 免疫・内分泌系を用いた独自の睡眠評価指標</p> <p>よりよい就寝環境 デザインの提案へ...</p> <p>統合的な睡眠評価法</p>
	<p>企業・自治体へのメッセージ</p> <p>これまでにシーズに関する共同研究を15社以上と取り組んできた実績があります。乳児～高齢者まであらゆる世代の健康、ひいては Well-being をサポートするような研究を一緒に展開できる企業・自治体と連携したいと考えています。</p>